

若手技能者を育成

協力会社向け年4回講習

大成ロテック

担い手不足が建設業界全体の課題となる中、大成ロテックは、協力会社の職長や若手技能者の育成

に乗りだす。同社がカリキュラムを作成し、主体となって行う教育制度を創設。年間4回の講習

を図る。

対象者は、同社安全衛生環境協力会の正会員企業のうち、施工に携わる

―1面参照

教育制度は、現場で不足する技能者の確保・育成を目的に創設し、11月に運用を開始するマイスター―職長制度と一体で運用。職長の技術力向上とともに、次代のマイスター―職長候補となる若手技能者の育成、意識改革を

約200社に所属する職長。1年間で4度の講習を受講し、施工や管理、積算、工程管理、見積もりなど道路舗装の施工に関する知識・技術全般を学ぶ。

初年度の受講者は、全国で約220人。講習は各支社で順次行い、初回の講習は、11月中に完了する予定だ。

今後は、マイスター―職長制度と連動させ、マイスター―認定の要件とする。ことも検討している。